インフォメーション・コーナー

会　告

○平成 25 年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第 1 報）CPD　**平成 25 年 9 月 3〜5 日開催** ……76
○「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ（再） ……76
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い ……76
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い ……77
○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！……77
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! ……77
○論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属無記名方式に関する意見を募集します　**締切　平成 25 年 1 月 25 日** ……78
○論文集の電子投稿・査読システムを導入しました ……78
○平成 26 年の表紙写真の募集　**秋季〜冬季締切　平成 25 年 3 月 31 日** ……78
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！ ……79
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い ……80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
　2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ ……80
○北海道支部講習会の開催について CPD　**申込締切　平成 25 年 1 月 11 日** ……81
○北海道支部第 36 回研修会の開催について CPD　**申込締切　平成 25 年 1 月 11 日** ……81
○平成 24 年度中国四国支部シンポジウムの開催について（第 2 報）CPD　**申込締切　12 月 20 日** ……82
○第 50 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）CPD　**申込締切　平成 25 年 1 月 23 日** ……82
農業農村工学会論文集第 282 号内容紹介 ……84
学会記事 ……86

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について，下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう，お待ちいたしております。
CPD のマークは，技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの，および認定申請中のものを表しています。

開　催　日	主　催	行　事　名	テ　ー　マ	開催場所	掲載号
平成 25 年 1 月 17 日	中国四国支部	平成 24 年度シンポジウム CPD	これからの農業土木技術者のあり方〜施設機械に関するストックマネジメントに係る技術力の向上〜	岡山市	80 巻 11, 12 号
平成 25 年 1 月 23 日	北海道支部	支部講習会 CPD	寒冷地における頭首工の管理について	札幌市	80 巻 12 号
平成 25 年 1 月 23 日	北海道支部	第 36 回研修会 CPD	北海道におけるレベル 2 地震動を考える	札幌市	80 巻 12 号
平成 25 年 2 月 1 日	材料施工研究部会	第 50 回シンポジウム CPD	地域資産としての農業基盤の再生と技術開発（仮題）	東京都	80 巻 10, 12 号
平成 25 年 9 月 3〜5 日	大会運営委員会	平成 25 年度農業農村工学会大会講演会 CPD	——	東京都	80 巻 12 号

第 81 巻第 1 号予定
展望：大規模経営体を創出・育成するための農業農村整備事業：石井　敦
小特集：大規模経営体の育成と農業農村整備事業
①圃場整備を通じた大規模農業法人の育成：藤井昌英ほか
②地域合意による大区画整備と利用権の集積：山路永司
③今こそ，経営と水田区画の規模拡大を：杉浦未希子ほか
④大規模法人経営を支える地下水位制御システム FOEAS：福与徳文ほか
⑤小規模・高齢化集落における農地保全プラン作成と基盤整備：冨田晋司ほか
⑥泥炭分布地域における大区画圃場の適正規模と農業的意義：北川　巌
技術リポート
北海道支部：林帯の再生に向けた伐り株移植の取組み事例：羽生哲也
東北支部：津波で被災した未整備農地の除塩取組み事例：佐藤　惠ほか
関東支部：北総中央地区における畑地灌漑の現状：戸島信弘
京都支部：ホタルなどに配慮した農業用排水路の施工と維持管理：望月直浩
中国四国支部：農道橋における長寿命化に向けた取組み：榎　勇気ほか
九州支部：浜ノ瀬ダム小水力発電施設の出力規模の拡大：粟生　茂ほか
小講座：簡単・低コストな土層改良「カッティングソイラ工法」：北川　巌
私のビジョン：人と水の関わりの中で：吉田武郎

平成25年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第1報）

大会運営委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

平成25年度農業農村工学会大会講演会は，東京農業大学において開催を予定しています。大会への投稿要項，参加申込み方法など，詳細は続報でお知らせいたします。

1. **開催期日**　平成25年9月3日（火）～5日（木）
2. **会　場**
   開会式および講演会：東京農業大学世田谷キャンパス
   交流会：場所未定
3. **講演会**　平成25年9月3日（火）～9月5日（木）
4. **交流会**　平成25年9月3日（火）

「資格試験のための農業農村工学必携」刊行のお知らせ（再）

この度，「資格試験のための農業農村工学必携」を刊行しましたので，お知らせいたします。

本書は「改訂七版農業農村工学ハンドブック（平成22年発行）」を再編集してコンパクトにまとめたもので，資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして，また，農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。さらに，要所には，資格試験で過去に出された問題を確認テストとして挿入しており，理解度の自己点検も行える内容となっています。

是非ご購入の上，お役立て下さい。

記

書名　資格試験のための農業農村工学必携
編者　公益社団法人 農業農村工学会
発行　平成24年6月8日
体裁　B5判　約550ページ
価格　定価　2,700円（税込・送料学会負担）
※会員価格の設定はありません。

購入方法

◆賛助会員・公費（官庁や自治体，国公立大学等）での購入
注文書（書式任意）に注文内容，送付先住所，所属，担当者名を記入の上，FAX, E-mail, または郵便にてご注文下さい。
お電話によるご注文は受け付けておりません。

◆個人・法人での購入
ご注文は代金先払いまたは代金引換で承ります。図書発送の送料は当学会で負担します。

①郵便振替
口座番号　00160-8-47993
加入者名　公益社団法人農業農村工学会
払込取扱票の通信欄に注文内容をご記入下さい。

②現金書留
注文書（書式任意）に図書代金を添えてお送り下さい。

③代金引換
注文書（書式任意）をFAXかE-mailでお送り下さい。
別途代引手数料がかかりますのでご了承願います。

◆申込先
〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
公益社団法人 農業農村工学会 事務局
FAX 03-3435-8494　E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は，農業農村工学の学術・技術の発展を通じて，わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし，昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ，農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり，東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには，若い世代の育成，新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は，これら諸活動に資するものとして，平成3年4月に学術基金を創設し，これに上野賞基金や冨士岡研究奨励基金を統合し，さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，お願い申し上げます。

なお，この学術基金による助成は，平成23年度までに61件の実績をあげています。

個人会員一口　5,000円（何口でも可）
法人会員一口　50,000円（何口でも可）
送金方法　銀行振込および郵便振替でお願いいたします。
銀行：みずほ銀行新橋支店
普通預金　No.1569058
口座名　（社）農業農村工学会学術基金
郵便振替：00140-2-54031
加入者名　農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では，近年における地震，豪雨等による災害が各地で発生し，農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み，それら災害の原因究明，復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として，災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では，「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」，「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して，災害発生後，直ちに災害対応調査団を派遣し，調査の実施，復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで，災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に，早急に対応できるよう，調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果，登録された会員は，災害対応調査団候補者名簿（2 年ごと更新）に記載して，緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお，災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は，以下のとおりです。

① 調査団の候補者は，高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
② 派遣する調査団員は，候補者名簿の中から選定する。
③ 調査団の派遣期間は，原則 2～3 日とする。
④ 調査団派遣に関わる旅費は，農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
⑤ 調査団員に対して，調査に必要と考えられる保険を掛ける。
⑥ 調査団は，調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ，学会事務局（FAX 03-3435-8494，E-mail：saigai@jsidre.or.jp）までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp/）よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお，登録いただいた個人情報は，災害対応調査にのみ使用し，適切に取り扱います。

CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！

農業農村工学会技術者継続教育機構では，急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や，CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく，研鑽記録の提出について「Web システム」を，平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ**早期に CPD ポイント取得結果を確認することができ，当該年度内であっても証明書の発行が可能**となりますので，是非とも Web システムをご利用下さいますようお願いいたします。

なお，当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが，その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については，技術者継続教育機構のホームページ（http://www.jsidre.or.jp/cpd/）をご覧下さい。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会
技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では，技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が，CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として，平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として，毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており，自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に，通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非，通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお，3 月号で「今後は Web 画面上のみで受付」と周知いたしましたが，2013 年（Vol.81）2 月号の解答受付分までは従来の Excel ファイルでの解答も受け付けさせていただきます。

1. 解答資格

解答ができる資格としては，農業農村工学会の個人会員であり，かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は，まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い，農業農村工学会員番号を取得された後，技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から，CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲

載します。問題は択一式で，毎回 10 問を出題します。

3. Web 利用登録と解答方法

Web で解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。(Web 画面上で解答ができるようになるまでには，登録に約 1 週間程度を要します。)「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に，Web 画面上で解答画面にアクセスし，正解と思う番号を入力し，送信をして下さい。

4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受付けは一切できませんので，十分ご注意下さい。なお，解答期限内であれば，Web 画面上で何度でも解答を訂正し送信することができますが，その場合は解答期限の直近に送信をした解答が有効となります。

5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期，およびポイント集計年度区分

採点は解答期限後に行い，全問正解で 2 CPD ポイント，7〜9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ，CPD 取得証明書の発行が可能です。なお，通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは，前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出題された問題への解答に該当します。

＊解答は技術者倫理に則り，自らの責任で作成して下さい。

論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属無記名方式に関する意見を募集します

論文集企画・編集委員会

論文集企画・編集委員会では，現在，論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記名方式について検討しているところですが，平成 24 年度第 2 回委員会（平成 24 年 10 月 22 日開催）において，投稿原稿の氏名・所属を無記名で査読している従来の方式から，著者が投稿時に原稿の氏名・所属の記名または無記名を選択できる方式に変更するとの結論に至りました。しかしながら，本変更を実施する前に広く会員からの意見を聴取すべきであるとの指摘もありましたので，会員皆様からの意見を募集します。

今後，提出いただきました意見をもとに検討し最終決定することとしております。なお，記名式も選択できることに関しての判断は以下のようなことが考えられます。

・査読者は著者の過去の論文等を積極的に参考できる。
・無記名にするのは論文等を改変することになる。
・他学会等の論文等査読はほとんどが記名方式である。
・記名により偏りのある査読判断になる可能性はある。

下記の要領にしたがって，積極的にご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

記

1. 意見の提出方法および提出先

メールによる提出のみ受け付けます。

提出先　E-mail：ronbun@jsidre.or.jp

2. 意見の提出締切日　平成 25 年 1 月 25 日（金）

論文集の電子投稿・査読システムを導入しました

論文集企画・編集委員会

論文集企画・編集委員会では，電子投稿・査読システムを平成 24 年 3 月 26 日より導入いたしました。

利用システムは現在世界的に広く普及している ASP（Application Service Provider）の Editorial Manager です。Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会で導入されており，日本でも実績があります。

新規投稿は電子投稿・査読システムでの運用となります。ただし，平成 24 年 3 月 25 日までに投稿され審査中のものについては，本システムの利用はできません。

「投稿の手引き」(学会ホームページ http://www.jsidre.or.jp/に掲載）を熟読の上，ご投稿下さい。

投稿先 URL

http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/index.html

平成 26 年の表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会

学会誌企画・編集委員会では，平成 26 年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ，ご応募下さい。

趣　旨

わが国において，土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は，農地を形成し，水を送り，物と人をつなぎ，連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつか

は，長年の風雨にさらされながらも，機能を保ち続け，その地域の自然や文化に溶け込み，農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は，地域の人々によって大切に守り，管理された結果，四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま，日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて，忙しい業務の合間にも，足を止め，手を休めて写真として記録していただき，広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1.　テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

2.　対象巻号　学会誌第 82 巻（平成 26 年 1〜12 月号）

3.　写真の種類

単写真，組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は，その旨明記して下さい。

4.　枚　数

応募写真に制限はありませんが，未発表のものに限ります。

5.　締　切　秋季〜冬季　平成 25 年 3 月 31 日
春季　平成 25 年 6 月 30 日
夏季　平成 25 年 9 月 30 日

6.　審　査　審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7.　結果発表

学会誌第 82 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し，採用作品は平成 26 年度大会会場でパネル展示します。

8.　謝　礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また，応募者には記念品をお送りします。

9.　「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover　History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は，採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお，些少ですが原稿料をお支払いします。

10.　使用権

採用作品の使用権は（公社）農業農村工学会に属します。

11.　注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか，表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には，農業施設・構造物の形状や機能が，その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと），また，デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること，が採用の条件となります。

12.　応募方法および応募先

学会ホームページより，応募票をダウンロードし，タイトル，郵便番号，住所，氏名，年齢，職業，電話番号，性別，写真のテーマ，撮影場所，撮影年月日，撮影データ（フィルム，使用カメラ等），対象物の固有名称（固有名詞），対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し，応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお，原則として，応募写真は返却しません。

〒105–0004　東京都港区新橋 5–34–4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係
☎03–3436–3418　FAX 03–3435–8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌企画・編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には，農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿下さい。

学会誌 81 巻の小特集のテーマ

小　特　集　テ　ー　マ			要旨締切（A 4 判 1,500 字以内）
81 巻	1 号	大規模経営体の育成と農業農村整備事業	公募終了
	2 号	農業水利施設を活用した小水力発電への取組み（仮）	公募終了
	3 号	農山漁村地域の再生に向けた GIS 活用の事例，課題と展望（仮）	公募終了
	4 号	農作物の高温障害対策への農業用水の効率的な利用（仮）	12 月 25 日
	5 号	地方の公的研究機関などにおける農業農村工学研究（仮）	公募なし
	6 号	平成 25 年度学会大会特集（関東支部）（仮）	公募なし
	7 号	小規模な災害を含めた農業農村の災害（仮）	2 月 15 日
	8 号	ダムの役割を問いなおす（仮）	3 月 15 日
	9 号	老巧化したため池の整備（仮）	4 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，**刷上り4ページ**となっておりますので，ご執筆の際には**厳守**いただきますよう，お願いいたします。

送付先　〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
☎03-3436-3418　FAX 03-3435-8494
E-mail：henshu@jsidre.or.jp

81巻4号テーマ「農作物の高温障害対策への農業用水の効率的な利用」（仮）

水稲生育期間の高温化による米の品質低下が顕著になったことを受け，農林水産省内に「水稲高温対策連絡会議」が設置され，情報収集や対策技術の検討などが開始されてから約10年が経過しました。その後，品種や耕種的対策技術の研究開発は進んでいますが，各地で高温障害とみられる米の品質低下の報告は依然続いています。また，水稲以外の作物や野菜，果実でも高温に起因する品質の劣化が問題となっています。

このようなかで，農作物への高温の影響を緩和する方法として，灌漑用水を利用する技術が広く採り入れられています。そこで，本小特集では，水管理や適切な灌水により農作物の高温による品質低下を抑制している事例やその効果発現に至る科学的メカニズムの検証，さらに地域で広く対策を講じるための用水供給などに関する課題についての報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは，インパクトファクターが0.986と高く，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されていますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
② 排水（排水管理，排水施設）
③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
④ 水資源保全（水源開発，水文）
⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan社
発行スケジュール：年4回（3，6，9，12月）
購読料：**正会員12,000円**
学生会員（院生含む）8,500円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部　中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌，国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は，2012年12月末にVol.10，No.4が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より，トムソン・ロイター社のSCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に，SCIEのIF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルはIF＝0.986と高い評価を得ております。

また，世界13カ国からEditor（23名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りますが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先：オンライン投稿（http://pawe.edmgr.com/）をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOGI
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.
6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan
TEL：+81-92-642-2909　FAX：+81-92-642-2914
E-mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。
その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

編集体制

・**Editor-in-Chief**：**Dr. Masaru Mizoguchi**（Japan）
Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
・**Editors**　13 カ国から 23 名
・**Editing Board**　35 名
・**Managing Editors**
Chief Management Editor： **Dr. Yoshiyuki SHINOGI**
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
Dr. Haruhiko HORINO
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan
Dr. Kazunari FUKUMURA
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan
Dr. Yu-Pin Lin
Department of Bioenvironmental Systems, Engineering National Taiwan University, Rep. of China
Dr. CHOI, Jin Yong
Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：**筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者**であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

北海道支部講習会の開催について

技術者継続教育認定プログラム申請中

1.　日　時　平成 25 年 1 月 23 日（水）9：30～12：00（予定）

2.　会　場　北海道大学学術交流会館 2 階　講堂
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ）

3.　テーマ

「寒冷地における頭首工の管理について」

プログラムおよび講師については調整中です。詳細は下記北海道支部ホームページにてご案内する予定です。

http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html

4.　参加申込み

下記様式により，E-mail，FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成 25 年 1 月 11 日（金）です。

＜北海道支部講習会参加申込書＞

所属機関
同上所在地
申込代表者　　TEL

氏　名	所　属	備　考

5.　申込み・問合せ先

〒060-8589　北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一　E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011-706-3641　FAX 011-706-2494

6.　参加費用

会員：1,000 円　非会員：2,000 円

北海道支部第 36 回研修会の開催について

技術者継続教育認定プログラム申請中

1.　日　時　平成 25 年 1 月 23 日(水)13：00～17：00(予定)

2.　会　場　北海道大学学術交流会館 2 階　講堂
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ）

3.　テーマ

「北海道におけるレベル 2 地震動を考える」

重要度の高い土地改良施設の耐震設計では，「起こるかも知れない」大地震動（レベル 2 地震動）に対しても，損傷を限定されたものにとどめて人命への二次災害や経済的損失を極力抑えることが求められています。都府県に比べて古文書など過去の地震の情報が少ない北海道で，「起こるかも知れない」大地震動をどのように考えるかは重要な問題です。近年，各種の観測体制が整備されるとともに，津波堆積物の調査が進んだことで，北海道における地震のメカニズムや過去の発生履歴についてたくさんの知見がすでに得られています。北海道の農業農村工学分野の技術者が，「起こるかも知れない」大地震を考えるとき，これらの最近の成果は貴重なヒントになるでしょう。

北海道の周辺海溝・内陸でどのようなメカニズムが作用しているのか，想定される地震による強震動予測はどこまで進んでいるのか，といった話題について専門家を招いて解説していただきます。

プログラムおよび講師については調整中です。詳細は下記北海道支部ホームページにてご案内する予定です。

http://www.agr.hokudai.ac.jp/nougyoudoboku/hokkaido-shibu/TOP.html

4.　参加申込み

下記様式により，E-mail，FAX または郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成 25 年 1 月 11 日（金）です。

＜北海道支部第 36 回研修会参加申込書＞

所属機関
同上所在地
申込代表者　　TEL

氏　名	所　属	備　考

5.　申込み・問合せ先

〒060-8589　北海道大学大学院農学研究院内
農業農村工学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一　E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011-706-3641　FAX 011-706-2494

6. 参加費　2,000 円（当日会場にて申し受けます。）

平成 24 年度中国四国支部シンポジウムの開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

中国四国支部では，若手技術者の農業土木事業への真の興味と情熱を喚起し，支部の更なる発展が図られるようシンポジウムを開催します。

会員各位のみならず，広く技術者が参加できますので，ふるってご参加下さいますよう，お知らせ申し上げます。

1.　主　催　農業農村工学会中国四国支部

2.　後援（予定）　中国四国農政局

3.　テーマ　「これからの農業土木技術者のあり方～施設機械に関するストックマネジメントに係る技術力の向上～」

4.　期　日　平成 25 年 1 月 17 日（木）

5.　会　場　ピュアリティまきび 2 F　千鳥
〒700-0907 岡山市北区下石井 2-6-41
☎086-232-0511　FAX 086-224-2995

6.　プログラム

12：45～13：45　受付
13：45～13：50　開会挨拶
13：50～15：20　基調講演 1
「トライボロジーを活用したポンプ設備の機能診断について」
農村工学研究所上席研究員　國枝　正
15：20～15：30　休憩
15：30～17：00　基調講演 2
「ポンプ設備診断技術の紹介と実機適用事例」
（株）日立プラントテクノロジー　橋本義之
17：00～17：05　閉会挨拶
17：30～　情報交換会（別会場）

7.　参加費　無料

8.　情報交換会

ピュアリティまきび 1 F レストランにて開催予定。
※会費は 3,500 円程度（当日受付にて集金）。

9.　参加申込みおよび連絡先

〒700-8532 岡山市北区下石井 1-4-1　岡山第 2 合同庁舎
中国四国農政局整備部設計課事業調整室　二宮，増田
☎086-224-4511（内線 2611，2623）　FAX 086-234-7445

10.　参加申込要領

整理の都合上，12 月 20 日（木）までに下記様式により FAX または郵便でお申し込み下さい。（農業農村工学会員以外の方も参加できます。）

氏　名：　CPD 番号（継続教育機構）
所属機関：
所在地：
電話番号：　FAX 番号：
情報交換会への参加：　参加　・　不参加

第 50 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

1.　主　催　農業農村工学会材料施工研究部会

2.　テーマ　「地域資産としての農業基盤の再生と技術開発」

3.　期　日　平成 25 年 2 月 1 日（金）

4.　会　場　星陵会館（東京都）
〒100-0014　東京都千代田区永田町 2-16-2
http://www.seiryokai.org/kaikan.html

5.　プログラム

10：00～　開会式
開会挨拶　材料施工研究部会部会長・新潟大学農学部教授　森井俊広
10：10～10：40　材料施工研究部会研究奨励賞授与式
10：50～11：50　＜基調講演＞
土地改良長期計画と新たな技術開発
農林水産省農村振興局設計課長　室本隆司

（昼食）

13：00〜15：00　＜一般講演＞

⑴　大規模災害による被災した農業基盤の復旧に資する新たな技術開発（BCP 関連）

農林水産省担当者（予定）

⑵　中国四国地方におけるため池整備の動向と展開

中国四国農政局整備部防災課長　岩下幸司

⑶　新潟県における腐食鋼矢板の補修・補強による農業用排水路の再生

北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所
企画情報管理室　島野秀次

⑷　農地除染対策実証事業の結果（中間取りまとめ）及び「農地除染対策の技術書」について

東北農政局整備部設計課事業調整室長　大川　稔

⑸　農業基盤の保全と技術開発－貯水施設を事例にして

愛媛大学農学部准教授　小林範之

（休憩）

15：15〜16：00　パネルディスカッション

コーディネーター：宮城大学食産業学部教授　北辻政文

16：00〜　閉会式

6.　参加費　4,000 円程度

当日，受付にて徴収させていただきます。

7.　申込み

以下の項目をご記入の上，FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際，標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込み」と明記して下さい。

①参加者氏名　②所属機関名　③所在地　④ TEL，FAX，E-mail アドレス　⑤弁当（代金￥1,000）予約注文希望の有・無　⑥ CPD 番号（登録希望の方）

8.　申込先

〒950-2181　新潟県新潟市西区五十嵐二の町 8050
新潟大学農学部気付　材料施工研究部会事務局
申込受付担当：鈴木哲也
TEL&FAX 025-262-7395
E-mail：suzuki@agr. niigata-u. ac. jp

9.　申込締切　平成 25 年 1 月 23 日（水）

10.　宿　泊　各自で手配して下さいますようお願いいたします。

11.　問合せ先　申込先と同じです。

地域環境工学シリーズ8

食と環境をまもる水田づくり

―新しい水田整備工学―

農業農村工学会発行

目　次

はじめに
Ⅰ．水田整備のあゆみと課題
　1．わが国の水田整備のあゆみ
　2．新しい水田整備の背景
Ⅱ．水田整備の基礎
　1．農地組織
　2．土壌・土層改良
　3．換地
　4．計画
Ⅲ．大区画化水田整備
　1．大区画化という課題
　2．大区画化の現状
　3．大区画水田の農地組織
　4．諸外国の大区画水田
　5．大区画水田での耕作
　6．低コスト化のための関連技術
　7．２１世紀の大区画水田
Ⅳ．中山間地域の水田整備
　1．固有の地域条件と水田整備の必要性
　2．中山間地域における圃場形態の特徴と整備課題
　3．中山間地域に適合的な圃場形態
　4．維持管理労働と区画の形状
　5．安全性の向上と圃場形態
　6．圃場整備計画作成支援システム
　7．維持管理も考慮した計画・整備の必要
Ⅴ．水田の多面的環境機能の回復と強化
　1．はじめに
　2．水田圃場整備における生態系の保全
　3．歴史的水田景観の保全
　4．土・水環境の保全
　5．新たな農村景観の創出
Ⅵ．土地利用秩序の形成
　1．土地利用秩序形成の課題
　2．土地利用秩序形成のための換地手法
　3．農地と宅地の利用調整
　4．社会資本整備等のための用地捻出

Ａ５判　約210ページ　定　　価3,300円（税込・送料学会負担）
会員特価2,900円（税込・送料学会負担）
〔会員特価は，個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先　〒105-0004 港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494